



〈多くの地点で降水量の観測史上1位を更新〉

令和元年東日本台風

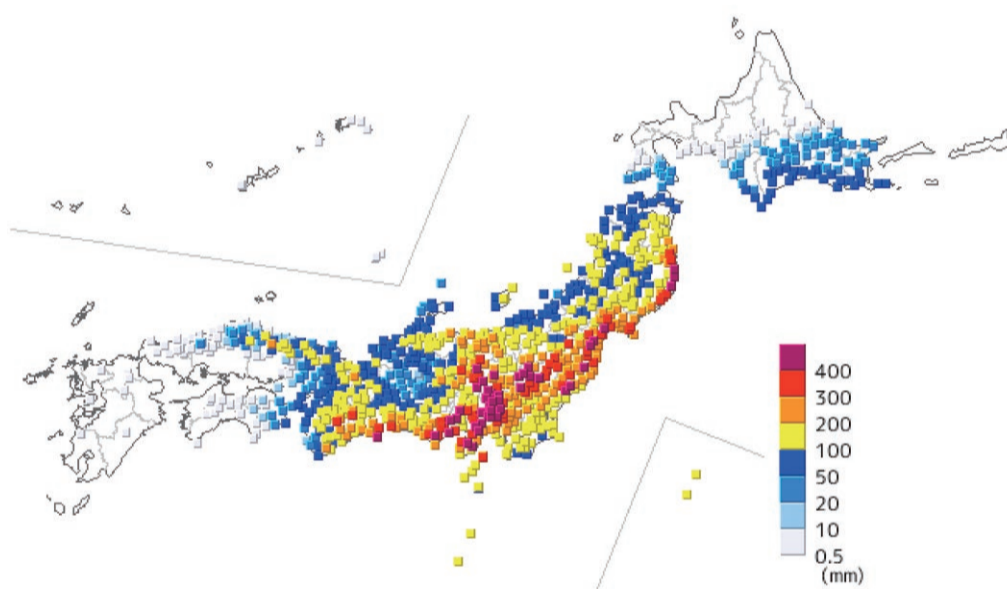
平成30年7月豪雨では、長時間の記録的な大雨となったのに対し、令和元年東日本台風では、半日から1日程度で記録的な大雨となった。

【令和元年東日本台風の概要】

概要

令和元年10月6日に南鳥島近海で発生した令和元年東日本台風（台風第19号）は、マリアナ諸島を西に進み、一時大型で猛烈な台風に発達した後、次第に進路を北に変え、日本の南を北上し、同月12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過し、同月13日12時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

この台風の接近や通過により、台風本体の発達した雨雲や台風周辺の湿った空気の影響で、静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となった。同年10月10日から13日までの総降水量は、神奈川県箱根町で1,000ミリに達し、東日本を中心に17地点で500ミリを超えた。特に静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方の多くの地点で3、6、12、24時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。



降水量の期間合計値（2019年10月10日～13日）
※内閣府ホームページより
https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/r02/zuhyo/zuhyo_t012.html

被害状況

広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、浸水害、土砂災害等が発生し、死者91名（福島県35名、宮城県19名、神奈川県9名、長野県5名、栃木県・群馬県・埼玉県各4名、岩手県・静岡県各3名、茨城県2名、千葉県・東京都・兵庫県各1名）、行方不明者3名、重傷者42名、軽傷者334名となった。住家被害については、全壊が3,273棟、半壊・一部損壊が63,743棟、浸水が29,556棟であった（消防庁情報、令和2年4月10日現在）。また、関東甲信越地方、東北地方を中心に停電や断水が相次ぎ、停電が約52万戸（最大）、断水が約16.8万戸（最大）発生するなど、ライフラインにも大きな被害が生じた。このほか、鉄道の運休等の交通障害が発生したとともに、道路の損壊や道路への土砂の流入、橋梁の流出などにより多数の孤立地域が発生し、住民生活に大きな支障が生じ、農林漁業等の経済活動にも大きな影響を及ぼした。



土砂被害



浸水被害



浸水被害

写真出典：内閣府ホームページ
https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/r02/honbun/0b_1s_01_03.html